

資料編

人名錄・鄉土歴史年表

1 人名録

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	初	代
		昭				大											明	就
		和				正											治	任
9	6	3	13	9	8	5	44	40	39	38	36	33	32	29	29	27	23	年
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	年
3	12	2	9	9	12	1	9	5	2	2	1	11	3	8	2	1	1	月
高	重	菅	菅	菅	渡	渡	中	小	中	菅	中	菅	石	菅	大	村	土	氏
岡	見				部	部	川	棕	川		川		黒		泉	上	居	名
宮	丈	広	広	広	基	基	嘉	和	嘉	藤	嘉	福	信	正	和	英	勝	
吉	太郎	綱	綱	綱	綱	綱	蔵	太郎	蔵	三	蔵	次	元	志	重	四	四	

1 人名録
村長の部

4	3	2	初	代	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
			明	就															昭
			治	任															和
33	29	26	23	年	54	50	46	42	38	36	34	30	28	26	22	20	17	16	12
・	・	・	・	月	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
12	6	12	1	月	4	4	4	7	7	2	5	5	8	4	4	12	10	1	1
三	菅	中	松	氏	中	中	中	青	青	重	高	重	小	高	高	小	重	八	八
浦	福	川	本	名	川	川	川	木	木	見	岡	見	椋	岡	岡	椋	見	幡	幡
民	嘉	嘉	源		鬼	鬼	鬼	定	末	丈	義	丈	嵐	直	直	嵐	丈	文	文
二	蔵	蔵	角		子	子	子	市	広	太郎	信	太郎	一	雪	雪	太郎	太郎	太郎	
郎					太	太	太												
					郎	郎	郎												

助役の部

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
																昭				大				明
																和				正				治
46	42	38	36	32	28	26	22	21	17	16	12	10	6	2	12	9	9	8	3	43	40	39	38	36
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
10	10	9	8	8	8	8	8	3	8	2	1	3	3	3	3	9	6	1	5	1	6	4	3	10
小	小	日	青	青	青	土	土	高	中	青	遠	菅	菅	松	遠	高	重	菅	菅	高	小	重	菅	
倉	倉	野	木	木	木	居	居	岡	谷	木	藤			本	藤	岡	見		三	岡	椋	見		
元	元	団	末	末	末	知	知	直	與	定	仁	誠	誠	重	仁	宮	丈	広	民	安	和	盛	藤	
義	義	平	広	広	広	直	直	雪	一	市	平	明	明	一	平	吉	太郎	綱	二	造	太郎	蔵	三	

1 人名録

※昭和二十二年以前の議長は、法律を兼任するところにより、村長が議長	山本春美	菅下福定	木下正勲	中川鬼子太郎	中川信孝	高田信孝	青木定孝	三浦信市	三浦盛信	中川行次	松本米一	松本一明	松本仁藏	氏名	歴代副議長の部	菅下福定	木下正勲	中川鬼子太郎	中川信孝	高田信孝
	昭和二十二年以前の議長は、法律を兼任するところにより、村長が議長	54	50	46	42	38	36	34	31	30	26	5	5	就任年月		54	50	46	42	38

高岡義豊	青木勇	松本明	中川英明	重見三郎	小椋長次郎	松本一明	松本茂	峯本繁一	中川荒鹿	松本一	小椋一	三浦盛信	小椋照一	青木末広	松本直	土居知胤	小椋春太郎	菅元広	重見丈太郎	青木末広	氏名	歴代教育委員の部
38	37	36	35	33	33	32	31	30	28	28	28	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	

藤原揚州	青木守二	石川盛隆	天野正克	氏名	歴代民生委員	菅本光夫	松川智夫	中川幸盛	高岡幸福	青木利盛	高岡幸盛	菅本最留	中川光夫	松本明	松本清	青木正雄	小椋政明	中川永明	高岡明	菅部直	渡部茂松
14	14	14	14	就任年月日		54	53	52	51	51	50	50	48	47	46	45	41	41	41	41	41

1 人名録

安高中藤谷中渡渡木菅中菅三中中高竹藤小日木中菅三松
 部岡川原口川部部山川浦川川岡村原椋野山川浦本
 富恒訥春虎秀ム喜君義正盛清文繁千訥長サ喜祐盛義
 勇佐子一堂太郎雄子ネ太郎喜雄明信愛子義猪堂郎力太郎明直信明

昭和 昭和 昭和
 37 34 31
 ・ 12 ・ 12 ・ 12
 ・ 1 ・ 1 ・ 1

中藤木真日中木中渡菅遠高松吉松中光山青木菅菅松高松
 川原下田野川山川部藤岡本本田本川田辺木山田岡本
 正頼通ト数長茂虎秀祐一一亀タカ義近タ敏喜久照一
 茂子康子一雄雄雄子直進恵明治江政雄ノ春太郎明茂子喜明

昭和 昭和 昭和
 43 40 37
 ・ 12 ・ 12 ・ 12
 ・ 1 ・ 1 ・ 1

渡高木菅中藤菅遠高吉菅高菅木藤中渡渡松菅中菅高高菅
 部橋下川原藤岡村岡下原川部部本川岡岡
 秀鹿通タ義訥英タ盛タ義文通訥義重秀房武タ良タケケ
 子三郎康子政堂郎進子行子豐子康堂政雄子雄明明義子金子

昭和 昭和 昭和
 49 46 43
 ・ 12 ・ 12 ・ 12
 ・ 1 ・ 1 ・ 1

氏
名
就
任
年
月
日

歴代農業委員

菅	加	山	高	菅	高	高	高	青	渡	高	菅	中	藤	菅	菅	高	高	高	菅	青
藤	本	岡	岡	岡	岡	岡	木	部	橋	川	原	川	原	岡	岡	岡	岡	岡	木	木
元	ヒ	武	美	英	一	永	義	晴	秀	鹿	タ	義	訥	英	一	永	義	卓	晴	
雄	ナ	子	代	郎	恵	明	朝	夫	子	三	ケ	政	堂	郎	最	恵	明	明	子	夫
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

三	松	木	木	高	菅	大	中	中	西	高	高	小	小	中	中	高	中	光	松	青	梅	小	石	菅
浦	本	下	山	田	野	川	川	森	岡	岡	椋	椋	川	川	岡	川	田	本	木	木	倉	川	川	菅
盛	米	松	幸	龍	鹿	和	正	兼	国	政	直	照	春	武	清	德	義	近	仁	守	重	藤	盛	鹿
信	一	郎	郎	一	雄	雄	茂	市	保	盛	雪	一	治	久	愛	郎	晴	雄	蔵	二	春	郎	隆	雄
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

松	青	遠	遠	松	中	高	渡	木	小	菅	三	重	高	中	小	小	菅	小	中	遠	山	青	重	小
本	木	藤	藤	本	川	岡	部	山	椋	浦	見	岡	川	倉	椋	松	川	藤	辺	木	見	椋	長	次
彰	福	亀	輝	政	友	謹	照	福	盛	丈	茂	広	元	照	詮	英	義	国	平	守	丈	長	次	
茂	利	吉	進	顕	明	綱	近	弥	一	富	信	郎	孝	近	義	一	明	春	雄	市	郎	二	郎	
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

2 郷土歴史年表

西暦	年号	内外の動き	郷土の動き		
三五〇		このころまでに大和朝廷が全国を統一する 朝鮮から仏教が伝わる 聖徳太子摂政となる	聖徳太子、道後温泉に来る		
五三八					
五九三					
五九六					
六三〇					
六四六	大化 二			中国に遣唐使が行く 大化改新で国郡制が定められる	
六六一					
七〇一	大宝 元			大宝律令制定	齊明天皇、九州へ行く途中、道後温泉に寄る 菅生山大宝寺が創建されたと伝える
七〇五	慶雲 二				
七一〇	和銅 三			平城京に都を移す	
七一三	〃 六	諸国に「風土記」編集の詔が出る	都から土佐国への使は伊予国を通らず阿波国からに改める		
七一八	養老 二				
七二八	神亀 五				
七四一	天平 一三	諸国に国分寺建立の詔が出る	このころ山部赤人、道後温泉に来て歌を詠む		
七四七	〃 一九		浮穴郡の名が「法隆寺文書」に記される		
七九四	延暦 一三	平安京に都を移す			
八〇六	大同 元	空海、唐から帰り真言宗を伝える			
八一五	弘仁 六				
八三四	承和 元		浮穴直千継が春江宿祢という姓をもらう		

2 郷土歴史年表

八五八	天安二	藤原良房、摂政となる
八八四	元慶八	藤原基経、関白となる
八九四	寛平六	遣唐使をやめる
九三九	天慶二	
一〇七一	延久三	
一〇八六	応徳三	白河上皇、院政を始める
一一五一	仁平元	
一一五三	〃三	
一一六七	仁安二	平清盛、太政大臣となる
一一八〇	治承四	源頼朝、平氏を討つため伊豆国で兵を挙げ
一一八一	養和元	
一一八五	文治元	平氏壇の浦で亡ぶ
一一九二	建久三	源頼朝、征夷大將軍となる
一二二一	承久三	承久の変
一二七三	文永一〇	
一二七四	文永一一	元軍、九州に來襲する(文永の役)
一二八一	弘安四	元軍、再び來襲する(弘安の役)
一三三三	元弘三	鎌倉幕府亡ぶ
一三三四	建武元	建武の新政
一三三八	延元三	足利尊氏、征夷大將軍となる
一三九二	元中九	南北朝の合一
一四一五	応永二二	
一四六七	応仁元	応仁の乱始まる(戦国時代となる)
一四九五	明応四	

藤原純友、瀬戸内海を荒す

河野通清・通信父子、高繩山で源氏に従い挙兵する

河野通信、義経に従って平氏の軍と戦う

通信、京方に従って敗れ平泉に流される

一遍上人岩屋寺にこもって修行する

河野通有、元軍と奮戦する

このころ河野通盛、道後に湯築城を築く

一五〇八	永正 五		
一五二五	大永 五		
一五三三	天文 二	ポルトガル人、鉄砲を伝える	
一五四三	〃 二		
一五四八	〃 一七		
一五四九	〃 一八	キリスト教伝わる	
一五七四	天正 二		
一五七五	〃 三		
一五八四	〃 一二		
一五八五	〃 一三	豊臣秀吉、四国を平定する	
一五八七	〃 一五		
一五九〇	〃 一八	秀吉、全国を統一する	
一五九二	文禄 元	秀吉、朝鮮に出兵する	
一五九五	〃 四		
一六〇〇	慶長 五	関ヶ原の戦	
一六〇三	〃 八	徳川家康、征夷大將軍となる	
一六二七	寛永 四		
一六三五	〃 一二	幕府、鎖国令を出す（日本人の海外渡航禁止）	
一六三七	〃 一四	島原の乱	

土佐国中村で一条氏全盛
四国遍路が伊予路を巡拝する

大除城主大野利直、大宝寺に梵鐘を寄進する。このころ土佐国に備え鷹森、銭尾、石本、高森などの砦が造られた

笹カ峠で長宗我部元親と大野直昌が戦ったと伝える
長宗我部元親、土佐国を統一する

大津城主大野直之ら、鷹森城を攻める、城兵ら撃退する

この春、河野通直は長宗我部元親に降る、七月に元親も秀吉に降り、伊予国は小早川隆景の領地となる
福島正則の領地となり、河野通直は安芸国竹原に移る
小川裕忠の領地となる

加藤嘉明（松前城六万石）の領地となる

嘉明、戦功により二〇万石となる。久万山六千石は家臣佃十成の知行地となる

嘉明、松山城を築く

嘉明会津四〇万石に転じ、蒲生忠知松山二〇万石となる

松平定行、松山一五万石の領主となる

このころ、定行久万山に茶の栽培を勧める

2 郷土歴史年表

一六四九	慶安二	「慶安の御触書」が出る
一六八八	元禄元	元禄時代始まる
一七一六	享保元	徳川吉宗、八代將軍となる（享保の改革）
一七三二	〃一七	西国大飢饉
一七四一	寛保元	
一七四二	〃二	
一七七五	安永四	
一七八七	天明七	松平定信、老中となる（寛政の改革）
一八二五	文政八	
一八三六	天保七	全国的に飢饉となる
一八四一	〃一二	水野忠邦、老中となる（天保の改革）
一八四二	〃一三	
一八五一	嘉永四	
一八五三	〃六	米使ペリー、浦賀に來航する
一八五五	安政二	
一八五八	〃五	井伊直弼、大老となる。日米修好通商条約調印、安政の大獄始まる
一八六七	慶応三	大政奉還
一八六八	明治元	鳥羽伏見の戦。江戸を東京とする
一八六九	〃二	版籍奉還
一八七一	〃四	廃藩置県
一八七二	〃五	学制頒布。大小区制。太陽曆採用
		伊予郡筒井村の義農作兵衛餓死する。久万山も大被害 久万山農民三千人、大洲に逃散する。松山藩領界郡界 一里塚の立木を石に改める 芭蕉五〇年忌の「霜夜塚」を大宝寺境内に建てる 松山藩、領内の郷村に非常困糶を命ずる（久万凶荒予 備組合の起り）
		松山藩主松平勝善、岩屋寺に参詣する
		松山藩、宇治から佐藤善助を雇い久万山の製茶を指導 させる
		松山藩朝敵とされ、藩主常信寺に蟄居、土佐藩進駐 久松定昭、知藩事に任ぜられる
		松山県となる、久万山騒動
		松山県を石鉄県とする、久万山は第一七大区となる

一八七三	〃	六	徴兵令布告。地租改正
一八七四	〃	七	民撰議院設立の建白書
一八七五	〃	八	
一八七六	〃	九	
一八七七	〃	一〇	西南戦争
一八七八	〃	一一	郡区町村編成法が公布される
一八八一	〃	一四	
一八八四	〃	一七	
一八八五	〃	一八	
一八八六	〃	一九	
一八八八	〃	二一	市制、町村制公布
一八八九	〃	二二	大日本帝国憲法発布、東海道線全通
一八九〇	〃	二三	第一回帝国議會を開く
一八九二	〃	二五	
一八九四	〃	二七	日清戦争起こる
一八九五	〃	二八	
一八九六	〃	二九	下関条約。三国干渉
一八九七	〃	三〇	
一八九八	〃	三一	隈板内閣（憲政黨）成立
一八九九	〃	三二	
一九〇〇	〃	三三	北清事変。立憲政友会成立

愛媛県が生まれる
菅生山大宝寺全焼、久万山第七大区となる
久万山に製茶盛んとなり輸出される
味川小学校創立
讚岐国を愛媛県に合せる、久万山は第一四大区となる
石墨小学校・若山小学校創設
上浮穴郡（四四村）が生れ、郡役所を久万町村に置く （郡長秋山静）（久万郷二八村、小田郷一六村）
二代郡長檜垣伸就任
松山二二連隊設置
この頃から「みつまた」栽培
九月大暴風雨
上浮穴郡一五村となる
柚川村役場を洪草に設置
初代村長土居勝四郎就任
八月予土横断道路竣工、三坂峠で完工式
二代村長村上英市就任
三代村長大泉和市就任
四代村長菅正志就任
郡の統合が行われ下浮穴郡がなくなる
洪草尋常小学校設置する
五代村長石黒信元就任
六代村長菅福次就任

2 郷土歴史年表

一九〇二	〃	三五	日英同盟
一九〇三	〃	三六	
一九〇四	〃	三七	日露戦争起こる
一九〇五	〃	三八	ポーツマス条約
一九〇六	〃	三九	
一九〇七	〃	四〇	
一九一〇	〃	四三	韓国併合
一九一一	〃	四四	条約改正なる
一九一二	大正	元	第一次護憲運動
一九一四	〃	三	第一次世界大戦に参加
一九一六	〃	五	
一九一八	〃	七	米騒動起こる。政党内閣成立
一九一九	〃	八	ヴェルサイユ条約調印
一九二〇	〃	九	
一九二一	〃	一〇	ワシントン会議。第一回国勢調査
一九二二	〃	一一	
一九二三	〃	一二	関東大震災
一九二四	〃	一三	第二次護憲運動
一九二五	〃	一四	普通選挙法施行
一九二六	昭和	元	郡役所廃止
一九二八	〃	三	
一九三〇	〃	五	ロンドン軍縮会議
一九三一	〃	六	満州事変

第七代村長中川嘉蔵就任
第八代村長菅藤三就任
第九代村長中川嘉蔵就任
第一〇代村長小椋和太郎就任
第一一代村長中川嘉蔵就任
第一二代村長渡部基綱就任
第一三代村長渡部基綱就任
第一四代村長菅広綱就任
中央自動車株式会社の久万、松山定期便開通
第一五代村長菅広綱就任
医師岡田種茂と村医契約
上浮穴郡役所廃止（最後の郡長武田嘉四郎）
第一六代村長菅広綱就任
田中精一と村医契約
第一七代村長重見丈太郎就任

一九三二	〃	七	上海事変。満洲国成立。五・一五事件
一九三三	〃	八	国際連盟脱退、京大瀧川事件
一九三四	〃	九	
一九三五	〃	一〇	二・二六事件
一九三六	〃	一一	日華事変
一九三七	〃	一二	
一九三九	〃	一四	第二次世界大戦起ころ
一九四〇	〃	一五	日独伊三国同盟成立。大政翼賛会発足 紀元二六〇〇年祭
一九四一	〃	一六	太平洋戦争起ころ。国民学校令公布
一九四二	〃	一七	
一九四四	〃	一九	広島、長崎に原爆投下。ポツダム宣言受諾
一九四五	〃	二〇	連合軍進駐
一九四六	〃	二一	日本国憲法公布。農地改革
一九四七	〃	二二	六・三・三制開始
一九四八	〃	二三	

面河溪文部省指定名勝地となる	中村正一と村医契約	袖川村を面河村と改名する	面河村役場新築する	第一八代村長高岡宮吉就任	方面委員(一〇名)設置	国鉄バス久万・松山間開通	第一九代村長八幡文太郎就任	竹谷から本組まで電気導入、初めて家庭に電燈がともる	県立上浮穴農林学校創立	第二〇代村長八幡文太郎就任	第二一代村長重見丈太郎就任	栗田裕賀と村医契約	伊予鉄バス、久万営業所を置く	洪草八幡神社空襲を受け焼失する	第二二代村長小椋胤一就任	梅ヶ市林道開設	大上富次郎と村医契約	第二三代村長高岡直雪就任・民生委員会設置	学制改革により面河中学校創立する	県立上浮穴高等学校発足・定時制五分校を置く
----------------	-----------	--------------	-----------	--------------	-------------	--------------	---------------	---------------------------	-------------	---------------	---------------	-----------	----------------	-----------------	--------------	---------	------------	----------------------	------------------	-----------------------

2 郷土歴史年表

一九四九	湯川秀樹ノーベル賞受賞
一九五〇	朝鮮動乱起こる
一九五一	日米安全保障条約調印
一九五二	町村合併促進法施行。NHKテレビ放送開始。朝鮮休戦調印
一九五三	自衛隊設置。鳩山一郎内閣成立
一九五四	三、一九第二次鳩山内閣成立。五、一 国鉄宇高連絡船紫雲丸衝突沈没一六八人死亡。八、六広島で第一回原水爆禁止世界大会。一二、二二第三次鳩山内閣成立
一九五五	六、二新教育委員会法成立。一〇、一五佐久間ダム完成。一一、一九東海道本線の電化完成。一二、一八日本の国連加盟、総会で可決。一二、二三石橋湛山内閣成立
一九五六	一、二九南極観測隊「昭和基地」に上陸。二、二五岸信介内閣成立。八、二七茨城県東海村原子力研究所に始めて原子の火ともる。一〇、四ソ連世界最初の人工衛生スパートニク一号打上げに成功
一九五七	一、三一米人工衛星エクスプローラ一号打上げに成功。三、二七ソ連首相にフルシチョフ就任。五、二二第二八回衆議院議員総選挙（自民二八七、社会一六六、共産一、諸派一、無所属一二）。六、一二第二次岸信介内閣成立
一九五八	

中村正一と村医契約

第二四代村長高岡直雪就任

面河村産業委員会発足

面河村に第一、第二森林組合設立

第二五代村長小椋胤一就任

大成桂の樹県天然記念物に指定される

面河小学校城山小学校を統合面河第一小学校となる

第二六代村長重見丈太郎就任

面河村第一、第二森林組合を解散し面河村森林組合を設立する

石鏡国定公園の指定をうける

洪草幼児学校開設する

国民健康保険直営診療所開設する

一ノ谷林道開設

一九五九	〃	三四	一、一メートル法実施。二、八黒部トンネル貫通。四、一〇皇太子殿下ご結婚式。九、一二ソ連、人類最初のロケットによる月面到達。二六伊勢湾台風死者行方不明計五、二〇〇余人
一九六〇	〃	三五	一、二四民主社会党結成大会。二、二三皇太子妃美智子妃殿下親王御出産（浩宮徳仁と命名）。四、二六新安保阻止学生デモ各地で行われる。六、一五安保阻止国民会議の統一行動に五八〇万人が参加。七、一九池田勇人内閣成立。一〇、一二社会党浅沼委員長、日比谷公会堂で右翼少年に刺殺される。一〇、二四衆議院解散。一一、二〇第二九回衆議院総選挙（自民二九六、社会一四五、民社一七、共産三、諸派一、無所属五）。一二、八第二次池田勇人内閣発足
一九六一	〃	三六	一、二〇ケネディ三五代米大統領に就任。六、一二農業基本法公布施行
一九六二	〃	三七	一、一八陸上自衛隊に八個師団誕生。三、二〇日本最長の北陸トンネル完工。五、一〇新産業都市建設促進法公布。七、一一参院で創価学会「公明党」結成
一九六三	〃	三八	一一、二一衆議院議員選挙行われる。二二ケネディ米大統領暗殺され、三六代大統領にジョンソン就任。一二、九第三次池田勇人内閣発足
一九六四	〃	三九	六、一六新潟、山形、秋田に大地震（死者二五人、行方不明一人、負傷三八〇人、家屋倒壊一〇八七戸）。一〇、一東海道新

第二七代村長高岡義信就任
新農村事業（開田）実施開始する（本組、中組）

農林省起業面河ダム起工式あり（松山県民館）
所ヤブ林道開設
西浦林道開通
第二八代村長重見丈太郎就任

児童扶養手当支給開始さる

馬門農道開設

第二九代村長青木末広就任
相峯林道開通
大成林道開通

面河村内各学校給食を開始

2 郷土歴史年表

一九六八	〃	四三	幹練、営業を始める。一〇、二四第一八回 オリンピック東京大会（九四国五五〇〇人 余参加）。一一、九佐藤榮作内閣発足
一九六七	〃	四二	一、二四英元首相チャーチル死去。四、四 米、南ベトナム機北ベトナム爆撃。一〇、 二一朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞
一九六六	〃	四一	四、一九ポストンマラソンで君原健二優 勝、四位まで日本独占。八、一八北京で文 化大革命勝利大集会開かれる。九、二四台 風二六号東海道関東を襲う（死者行方不明 三〇〇名以上）
一九六五	〃	四〇	世界女子バレーボール大会に日本優勝。 二、二七第二次佐藤内閣発足。三、六国道 一号線鈴鹿トンネル内でトラック一三台炎 上。四、一五東京都知事に社、共産党推薦 の美濃部亮吉当選。六、五中東戦争始まる （九日停戦）。一〇、ソ連イスラエルと断交。 一七中国初の水爆実験成功と発表。七、一 四米価審議会、答申不能と農相に報告。 九、八閣議一〇月一日から消費者米価の平 均一四・四％値上げを決定。一〇、八佐藤 首相第二次東南アジア、オセアニア諸国訪 問に出発、反日共系全学連の抗議デモ、羽 田で警官隊と衝突。一二、二二農林省米収 穫高一四四五万トン史上最高と発表

二、二一宮崎県えびの町中心に大地震、宮
崎、鹿児島、熊本三県に被害。在日朝鮮人
金嬉老、静岡県寸又温泉で一三人を人質に
ろう城、二四日逮捕。四、一九州四国中国

洪草で火災四軒焼失三名焼死

村営国民宿舎「面河」完成

第三〇代村長青木定市就任
村道幸成線開通

四、一笠方小学校、洪草小学校統合する
面河自然休養林「面河国民の森」指定される

一九六九	〃	四四	<p>地方に大地震。震源地は日向灘。五、二七 沖繩返還の第一回日米協議開始。六、二六 小笠原諸島正式に日本に復帰。九、二三台 風一六号宮古島を直撃。一〇、一七ノーベ ル文学賞川端康成に決定。二三明治一〇〇 年記念式典行われる。一一、五米大統領選 挙投票ニクソン元副大統領当選。一二、一 〇東京府中市で銀行輸送車白バイの警官を 装った男に三億円を奪われる。</p>
一九七〇	〃	四五	<p>一、一九警視庁八五〇〇人の警官を動員し 東京大学の封鎖解除。一、二〇ニクソン大 統領就任式。六、二二安保廃棄統一運動に 一十万人が参加。七、三警視庁、年初から 六月末までに交通事故死傷者四三万〇九〇 八人、史上最高と発表。七、七東大授業再 開。七、二〇米アポロ一号月面に着陸</p> <p>一、七本年度産米一五〇万トン減産策、各 都道府県別割当を決定。一四第三次佐藤内 閣「実行型内閣」として発足。三、一四ア ジアで初の日本万国博開会式。三、一赤軍派 学生、福岡行日航定期便「よど号」を乗っ 取り韓国金浦空港に着陸。五、三一ペルー 大地震、死者行方不明七万人。九、一三日 本万国博開幕、参加七七カ国、入場者六四 二一万人史上最大の規模。一〇、一戦後初 の沖繩を含めた国勢調査人口一億〇四六六 万五一七一人。二日本最長の山陽新幹線六 甲トンネル（長さ一六・二五〇^{キロ}、世界三 位）開通式。一一、二五三島由紀夫陸上自</p>

県営石鏡スカイライン開通する
上谷林道開設

2 郷土歴史年表

一九七二	〃	<p>衛隊東部方面総監部でクーデターを呼びかけ失敗自殺 六、一七沖繩返還協定調印式。一〇、五兩陛下五〇年ぶりにロンドンご訪問。二五中国の国連代表権回復、台湾正式に国連脱退を声明。一二、二四東京新宿の派出所で爆弾爆発、警官二人と通行人一〇人が重軽傷 一、二四太平洋戦争生き残りの元日本兵横井庄一、グアム島の密林で発見。二、一郵便料金と医療費値上げ実施。六笠谷選手、札幌五輪七〇級ジャンプで優勝。二七群馬県警、妙義山中で連合赤軍最高幹部永田洋子と森恒夫を逮捕。二八、住友金属鉱山、別子銅山閉山発表。三、二六奈良県明日香村高松塚古墳から極彩色の壁画発見。 四、一六ノーベル賞作家川端康成ガス自殺。 五、一三大阪千日ビル出火、アルサロのホステスなど一八人死亡。三〇テルアビブ国際空港で日本人ゲリラが二六人を殺害。 六、一一田中通産相「日本列島改造論」発表。七、七田中角栄新内閣閣内閣完了。九、二九日中共同声明調印し外交関係樹立。一、七米大統領選挙ニクソン再選。一二、二二第二次田中内閣発足</p>
一九七二	〃	<p>第三一代村長中川鬼子太郎就任 面河少年自然の家開設する 老人医療（七〇歳以上）費無料化する 面河村観光センター完成 日本きじの飼育開始、鮭の養魚ふ化開始 面河村敬老年金制度発足 通学道（面一く成くぼ）自衛隊により開設 河口橋架設 黒妙農道開設 矢田谷林道開設</p>
一九七三	〃	<p>二、二〇愛媛県政発足一〇〇年記念日、県歌県章制定、三、三一別子銅山閉山。四、八二〇世紀最大の画家フランソワ・ピカソ死去。六、一五ベトナム停戦実施。七、三〇松山の古照遺跡は弥生住居でなく四世紀古</p>
一九七三	〃	<p>面河村農業協同組合を解散し久万農協面河支所となる 老人家庭奉仕員（一名）設置する 上浮穴生活環境事務組合でし尿ごみ処理開始さる 村内電話自動化となる 県営国民宿舎「石鏡」簡易宿舎「岩黒山荘」買収移管</p>

一九七四	〃	四九	<p>墳時代のしがらみと断定。八、八東京のホテルで韓国の元大統領候補金大中が連れ去られる。九、四温州みかんソ連輸出決定。一〇、一愛媛大学医学部発足。二三江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞（日本人で四人目）。一、五アラブ一〇カ国原油生産二五％削り石油危機。一四本州九州をつなぐ関門橋開通。二九熊本の大洋デパート八時間燃え一〇二人死亡</p> <p>一、二六松山市の人口三五万となる。七、七第一〇回参議院選挙行われる。一一、一一第三次田中内閣発足。一二、九三木武夫新内閣組織完了</p>
一九七五	〃	五〇	<p>一、二六愛媛県知事選白石春樹氏四三万七九八〇票を得て当選。六、一〇四九年国民総生産戦後初のマイナス実績〇・六％減。七、一九沖繩海洋博海と空に開幕。日米友好親善のため両陛下ご訪米。国勢調査概数まとまり本県人口一四六万五二〇五人。一二、二一越智郡上浦町で大三島橋の起工式</p> <p>六、二五河野洋平氏ら六人新自由クラブ結成。九、一五三木改造内閣が発足稲葉法相ら八人留任。一二、五第三四回総選挙。</p>
一九七六	〃	五一	<p>村名改称四〇周年記念式典執行する 高知営林局面河山国有林（四、〇九五ヘクタール）を永久保存決定宣言する 面河村章制定する 夜間照明施設完成（洪草、本組、中組、若山） 村内村道以外の生活道舗装実施 村有林として下山（一〇・三ヘクタール）買収する 宮前林道開設 峯林道（第一次）開設 カジ谷林道開設 第三二代村長中川鬼子太郎就任 県道（通仙橋、洪草間）二車線拡張工事開始さる 面河溪の空船橋架替工事完成する 洪草へ「みんなの広場」建設する 河合農道開設</p> <p>国土調査開始する 中核林業振興地域の指定を受ける（上浮穴郡五ヶ町村）</p>

2 郷土歴史年表

一九七九	一九七八	一九七七
〃	〃	〃
五四	五三	五二
<p>一、二、七三木首相、自民惨敗で引責退陣、福田赴夫内閣発足</p> <p>一、八本四連絡尾道—今治ルート因島大橋着工。四、六新自由クラブ愛媛旗揚げ代表横田弘之氏会員一三〇〇人で正式発足。</p> <p>七、一二参院選開票、与党一二七、野党一二三退潮自民に歯止め、成田社会党委員長敗北で引責退陣へ。八、四日ノ漁業協定調印、割当量三万五千トン水域は日本案認めらる。一一、二三欧州為替市場で円急騰一ドル二四〇円の壁破れる。一一、二八福田改造内閣スタート。一二、三社会党次期委員長人事急転飛鳥田一雄横浜市長が受諾。一二、一五円再騰ついに一ドル二三八円に</p> <p>三、二四東京為替市場で円一気に二二八円台突入。五、二〇成田空港開港過激派が空港ゲートなど火炎ビンで夜襲。一〇、一八東予市の永納山山城跡の確認調査始まる。四国の電話すべてダイヤル化。一一、二七福田首相、党総裁公選予備選に敗れ退陣表明。一二、一自民党臨時党大会で大平正芳氏第九代自民党総裁に選出される。</p> <p>一、二一県知事選に白石春樹氏が三選。</p> <p>一、二五世界最長の清水トンネル貫通。</p> <p>四、八県議選投票（投票率六八・九八％戦後最低）。五、一二大三島橋が開通。五、二九松山市の人口三九万人（四国一、全国三</p>	<p>面河第一幼児学級校舎新築完成する</p> <p>面河中学校（L、L教室）設置する</p> <p>村内母子家庭医療費免除とする</p> <p>面河村庁舎、住民センター建設工事完成する</p> <p>重見丈太郎翁、菅広綱翁胸像完成除幕式挙行する</p> <p>若山林業研修センター完成</p> <p>面河溪道路舗装工事完工（通天橋—国民宿舍）</p> <p>台風9号被災村道大成線災害復工事着工、</p> <p>洪草幼稚園、面河第一幼稚園開設する</p> <p>西ノ谷林道開通する</p> <p>面河村第一回ふるさとまつり実施する</p> <p>第二次林業構造改善事業開始</p>	<p>第三三代村長中川鬼子太郎就任</p> <p>面河村広報無線施設完成する</p> <p>黒妙林道開設</p> <p>面河村歯科診療所開設</p> <p>面河村第二回ふるさとまつり実施</p>

四位)。六、二四カーター米大統領来日。
六、二八東京サミット開く、石油輸入大筋
で合意。七、二梅雨前線豪雨の県下被害一
〇二億二千万円。七、一四南宇和郡城辺町
沖で「紫電改」浮上。松山城夫神槽復元。
一〇、七総選挙、自民党安定多数を割る。
一〇、二三KDD事件。一〇、二六韓国朴
大統領射殺される。一一、八第二次大平内
閣発足
